

本時のねらい

・二等辺三角形の定義を理解し、その性質を、証明を含め理解することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・発表ノートを使用することで、考えたことを書いて消して、また考えてという試行錯誤が行いやすくなる。
- ・振り返り問題をデジタルドリルで行うことで、配付や提出の時間短縮につながり、提出状況もすぐに把握できる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・SKYMENU Cloud（発表ノート）、デジタルドリル（Qubena）

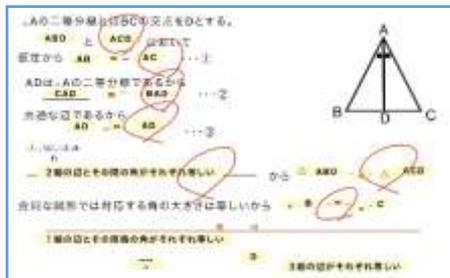
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	1.二等辺三角形について小学校での既習事項の確認を行う。 ・「2つの底角は等しい」「2つの辺の長さが等しい」 ・小学校ではどのように説明したか。 (分度器や画用紙での具体物で説明)	
展開 (30分)	2.二等辺三角形の定義を確認する。 「2つの辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形という」 3.発表ノートを用いて二等辺三角形の性質の証明を行う。 ・穴埋めになった証明を完成させる。【写真1】【写真2】	・証明を一から完成させるのではなく、穴埋めにしておき、何が入るか考える形にする。(語群も準備しておく) ・発表ノートで試行錯誤を行いやすくすることで、まずは証明ができたという実感を持たせる。その結果、1から自分で記入するプリントの証明問題にも取り組みやすくなる。
まとめ (10分)	4.二等辺三角形の定理について確認する。 ・定理について説明し、3で行ったことが定理であるということを確認する。 5.デジタルドリルを使って、振り返り問題に取り組む。 【写真3】 6.振り返りシートの記入	・デジタルドリルを使って配付や提出の時間短縮を図る。また、回収時のチェックも行きやすくなる。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】：個人思考の場面



【写真2】：穴埋めの発表ノート



【写真3】：学習内容をデジタルドリルで振り返る場面

児童生徒の反応や変容

- ・数学における証明は、難易度が高く挑戦が難しい分野であるが、発表ノートでの並べ替えに変更したことで、何度もチャレンジすることができていた。
- ・1時間の中で「確認テスト」まで行うことができ、学習内容の定着も見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・並べ替えが視覚的に行うことができ、まずは証明ができたという実感を持つことができる。
- ・紙媒体に比べて、考えたことを書いて消して、また考えてという試行錯誤が行いやすく、繰り返し挑戦することができる。また、語群から選択させることにより、難しい課題にも意欲的に取り組むことができる。
- ・振り返り問題をデジタルドリルで配付し回収することで、時間の短縮につながり、回収時の確認も行きやすい。